

平成29年度 宇都宮市立城山中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 健康で豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを目指して、感性を磨き、社会的知性と実践力を身に付ける。
目指す児童像 ・進んで勉強する子ども（かしこく）
・思いやりのある子ども ・喜んで働く子ども（なかよく）
・健康で明るい子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

今年度のテーマ「みんなが 楽しく 城山中央小学校」
「地域が学校～地域に学び、地域とともに伸びる城山中央小学校～」
<児童にとって> ・学ぶ楽しさ ・仲間がいる楽しさ ・学校の楽しさ のある学校
<保護者・地域にとって> ・通わせる楽しさ ・協力する楽しさ のある学校
<教師にとって> ・教え・導く楽しさ のある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 城山中央小学校の歴史と伝統を踏まえ、長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し、その発展に努める。
- (2) ○学校経営の中核に児童の確かな学力の定着を位置づけ、目標を設定し、基礎基本の確実な定着と課題解決に必要な資質能力を育てる。
- (3) ○規範意識や倫理観などの社会性を身に付け、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成に努める。
- (4) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに、家庭・地域の教育力を生かした教育活動を充実させ、地域に根ざした開かれた「地域の学校づくり」に努める。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、専門職にふさわしい資質の向上を目指すとともに授業者としての授業力の向上を図る。
- (6) 城山学校園教育ビジョンにのっとり、小中一貫教育を推進するとともに、学校園内各小学校との連携による地域一体の教育を推進する

【城山地域学校園教育ビジョン】ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

【ビジョンの理念】人と関わり合うことを大切にし、ともに向上しようという意識を高めながら、望ましい人間関係のもと、支え合いと活気のある集団の中で、様々な活動に主体的、意欲的に取り組む児童生徒を育てる教育を積極的に推進する。

【スローガン】なんでも全力、みんなでチャレンジ

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

○学び合う楽しさ、豊かな心の育成を目指した、和と協働の学校づくりの推進
～みんなが楽しく、城山中央小学校～

【学 習 指 導】

基礎基本を身に付け、自ら考え生き生きと表現する児童の育成

【児 童 生 徒 指 導】

○思いやりの心を持ち、決まりやルールを守り、主体的に行動ができる児童の育成
～児童と児童、児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して～

【健康（保険安全・食育）・体力】

自分の体に関心を持ち、進んで健康の保持増進と体力の向上に励む児童の育成
～教科体育や体育的行事の充実と児童が体を動かしたくなる体育的環境の整備～

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 適正な学校運営に努める。 ・創意と調和のある「子どもを生かす」教育の実践 ・学校評価を生かした保護者、地域と一体化した学校づくりの推進 ② 児童・保護者・教師・地域の思いを把握し、学校運営に生かす。 ・学校運営推進委員会の設置	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>91.6% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.3% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 児童は学校生活を通して、学ぶ楽しさや友達と過ごす楽しさを味わうことができた。児童、保護者、地域の思いを生かし、学校運営をすることができた。 【次年度の方針】 児童がさらに学校生活を充実させることができるよう、児童の自己有用感や学級への所属感を高められるようにしていく。	児童	91.6% ↓	保護者	96.3% ↑	地域住民	100% →	教職員	100% →
	児童	91.6% ↓										
保護者	96.3% ↑											
地域住民	100% →											
教職員	100% →											
A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 全体アンケートの「教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 教職員の資質と能力の向上に努める。 ・教育に対する理念、使命感、豊かな人間性、教育実践力、動向を察知した対応力等の向上 ・「報告・連絡・相談」の徹底 ・学年交換授業や教科担任制の推進 ・教師一人一人の授業力の向上 ② 学習活動における「考える力」を重視した指導について研究し、児童一人一人の思考力の育成と学力の向上に努める。 ・学習のめあての提示 ・ふり返り ・自分の考えを書く活動 ・学び合い活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.0% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 教職員は、校内研修や学力向上応援団事業などで、資質の向上に努め、研究授業を通して授業力の向上に取り組んできた。また、基礎基本の定着に向けてめあての提示と振り返りに視点をあて、全校体制で取り組むことができた。 【次年度の方針】 学力向上改善プランを具体的に実施することで、基礎学力の向上を図るとともに、学び合う教師として資質の向上に努めていく。	児童	100% ↑	保護者	93.0% ↓	地域住民	100% →	教職員	100% →	
児童	100% ↑											
保護者	93.0% ↓											
地域住民	100% →											
教職員	100% →											

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① <u>基本的な生活習慣と規範意識の育成に努める。</u> ・生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施 ・「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導 ② <u>家庭・地域・関係諸機関と連携を図る。</u>	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>82.4% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.6% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5% ↑</td></tr></table> 日々の教育活動を通して、基本的な生活習慣と規範意識の育成に努めたが、児童の肯定的回答が数値目標を下回った。但し、保護者・地域・教職員の3者は、いずれも昨年度よりも肯定的回答が上昇しており、全体としては改善が見られる。 【次年度の方針】 「城央小のよい子」をベースに全職員の共通理解のもとで支援・指導にあたり、児童一人一人にとって、「楽しい学校・居がいのある学校」づくりを推進する。 職員研修等で教職員の人権感覚の醸成に努める。	児 童	82.4% ↓	保護者	92.6% ↑	地域住民	100% ↑	教職員	90.5% ↑
児 童	82.4% ↓									
保護者	92.6% ↑									
地域住民	100% ↑									
教職員	90.5% ↑									
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習指導の工夫・改善を図る。 ・計画的な朝の学習の推進と見通しを持った授業の推進 ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・習熟度別学習や少人数指導・TT指導等の効果的実施 ・学習内容定着度調査などの活用 ・かがやきルームの有効活用及び指導体制の充実 ・授業力向上のための校内研修の充実 ② 家庭・地域への広報の仕方を工夫する。	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>98.0% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.1% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>92.9% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 分かる授業を進めるために、学力向上のための研修の成果を生かし、授業改善に取り組んだ。また、個に応じた支援を充実させるために、習熟度別学習やかがやきルームでの学習の体制を整え、きめ細かい指導の充実を図った。 【次年度の方針】 授業力向上に向けて、校内研修を進めるとともに、朝の学習や家庭学習の工夫改善を図ることで、個に応じた指導を充実させる。	児 童	98.0% ↑	保護者	87.1% ↑	地域住民	92.9% ↓	教職員	100% →
児 童	98.0% ↑									
保護者	87.1% ↑									
地域住民	92.9% ↓									
教職員	100% →									
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を推進する。 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」の充実 ・いじめ根絶集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・<u>あいさつ運動の実施等見守り体制の整備</u> ・潤いのある学校環境の整備 ・「さん」付けの呼び方の徹底 ② 家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・学校便りやホームページで公開 ・道徳の授業で公開	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>98.4% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>69.3% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>78.6% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 教職員は、いじめに対する危機意識を常にもって児童の指導にあたっており、児童も十分理解している。しかし、指導の実態が保護者や地域住民には、十分理解されているとはいえない。 【次年度の方針】 児童の日々の生活の様子を的確に把握することによって、いじめに結び付くような諸問題を早期に発見し、迅速に対応する。問題が起きた場合は、その都度記録をとり、必要に応じて指導の経過を保護者に伝え、家庭と連携して指導にあたる。	児 童	98.4% ↑	保護者	69.3% ↓	地域住民	78.6% ↓	教職員	100% →
児 童	98.4% ↑									
保護者	69.3% ↓									
地域住民	78.6% ↓									
教職員	100% →									

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「自分の学校での生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① マネジメントサイクルを活用した特色ある教育課程の編成に努める。 ・「児童が生き生きと活動できたか」という視点からの学校行事等の反省・改善	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.2% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.0% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2% ↓</td></tr></table> マネジメントサイクルを活用し、教育課程の改善を図りながら、実践に取り組んだ。また、創立120周年を機に、本校の特色ある学校教育のよさを再度確認し、充実した教育活動を展開できた。 【次年度の方針】 教育課程を実践する上で、児童のどのような資質、能力を育てていくのかを明確にし、ねらいに応じた活動の工夫や振り返りを積み重ねていく。また、日課の改善に取り組む。	児 童	93.2% ↓	保護者	94.0% ↓	地域住民	100% ↑	教職員	95.2% ↓
児 童	93.2% ↓									
保護者	94.0% ↓									
地域住民	100% ↑									
教職員	95.2% ↓									
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 保護者や地域に信頼される学校づくりに努める。 ・開かれた学校、学級づくりの推進 ・うつのみやオープンスクール、授業参観、学校自由参観等の効果的な実施 ・学校便り、ホームページ、学年便りなどの充実による積極的な情報発信 ・保護者、<u>地域の方との積極的なコミュニケーション</u>	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.4% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 各種たよりを作成し配付するだけでなく、行事の様子や各種たよりをHPに載せることで、学校の取り組みについて発信することができた。また、学校や学級の様子を知ってもらう場として、学校自由参観や学習発表会などの行事を積極的に行い、保護者や地域の方から信頼を得られるよう取り組んだ。 【次年度の方針】 今後も各種たよりの内容を充実させたり、学校行事の様子を積極的にHPに公開することで、情報発信に努めていく。	児 童		保護者	96.4% ↑	地域住民	100% →	教職員	100% →
児 童										
保護者	96.4% ↑									
地域住民	100% →									
教職員	100% →									
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域人材の協力や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・「町の先生」の年間指導計画への位置づけ ・各育成会や地域行事への積極的な参加 ・<u>小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施</u> ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動の工夫・充実	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.2% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.4% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 学習活動の充実を図るための地域人材の活用が推進できた。特に、地域協議会との連携がより強くなり、特色ある学校づくりを進めることができた。 【次年度の方針】 学習効果がより高まるような地域人材の活用を進めるとともに、「町の先生」の内容の見直しを図りながら、新たな人材の発掘に努める。	児 童	93.2% ↓	保護者	91.4% ↓	地域住民	93.3% ↓	教職員	100% →
児 童	93.2% ↓									
保護者	91.4% ↓									
地域住民	93.3% ↓									
教職員	100% →									

A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 教室や校内の学習環境を整える。 ・教室環境の見直しと改善 ・日常の清掃活動の工夫改善と充実 ・まごころ広場や花壇・教材園の整備 ・各委員会等、児童を主体とした清掃活動 ② P T Aやボランティアの協力を得て、環境整備に努める。 ・トイレやオープンスペースの美化	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 1 . 6 % ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>9 6 . 7 % ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>1 0 0 % →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>8 5 . 7 % ↓</td></tr></table> 学習や学校のきまり等の掲示物を更新し、学校全体で学年に応じた学習環境を改善できた。また、行事や季節に合わせての掲示物等を工夫することによって、潤いのある学習環境を整えることができた。 【次年度の方針】 日常の清掃活動では、その場所や時期に合わせた清掃の仕方について工夫改善を図っていく。	児 童	9 1 . 6 % ↓	保護者	9 6 . 7 % ↑	地域住民	1 0 0 % →	教職員	8 5 . 7 % ↓
児 童	9 1 . 6 % ↓									
保護者	9 6 . 7 % ↑									
地域住民	1 0 0 % →									
教職員	8 5 . 7 % ↓									
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小中学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 小中の相互乗り入れ授業を計画的に実施する。 ・年間を見通した計画の作成と実践 ・成果や課題の共有化 ② 小中合同の行事や活動に積極的に取り組む。 ・年2回のあいさつ運動の推進 ・冒険活動教室での交流 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ ③ 地域学校園組織の活性化を図る。 ・分科会の持ち方の工夫 ・地域学校園内の情報の共有化	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 3 . 0 %</td></tr><tr><td>保護者</td><td>9 1 . 0 %</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>1 0 0 %</td></tr><tr><td>教職員</td><td>1 0 0 %</td></tr></table> 小・中の相互乗り入れを積極的に行ったり小中合同であいさつ運動を実施したりし、小中一貫教育に取り組んだ。また、地域学校園の分科会では前年度の反省を生かし、今年度の取り組みに生かすなど、地域学校園の組織の活性化に努めた。 【次年度の方針】 小中間で学校の様子や児童の様子などについて、さらなる情報共有に取り組む。また、あいさつ運動では、今年度の活動を振り返り、中学校と連携し内容・方法の工夫に努める。	児 童	9 3 . 0 %	保護者	9 1 . 0 %	地域住民	1 0 0 %	教職員	1 0 0 %
児 童	9 3 . 0 %									
保護者	9 1 . 0 %									
地域住民	1 0 0 %									
教職員	1 0 0 %									
B 1 児童は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 全体アンケートの「児童は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① <u>家庭と連携して、学習習慣の確立を図る。</u> ・「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」に基づいた、発達段階に応じた宿題や自主学習の工夫 ・家庭学習の成果の評価と意欲の喚起 ・「学習習慣定着強化週間」を定期的に設定して、家庭と連携した指導に努める。	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>7 7 . 3 % ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>6 8 . 2 % ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>9 0 . 0 % ↓</td></tr></table> 児童、教職員の達成状況の数値が昨年度よりも下がり、保護者の肯定的回答は上昇しているものの、数値は70%を下回る結果となった。家庭での学習の習慣化に課題が見られる。 【次年度の方針】 家庭学習の習慣化を図るために、より具体的な方法を提示したり、個に応じて声掛けしたりする。	児 童	7 7 . 3 % ↓	保護者	6 8 . 2 % ↑	地域住民		教職員	9 0 . 0 % ↓
児 童	7 7 . 3 % ↓									
保護者	6 8 . 2 % ↑									
地域住民										
教職員	9 0 . 0 % ↓									

教育活動の状況	生活	A11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 児童が主体的に取り組む「あいさつ運動」を推進する。 ・家庭及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開 ・小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・児童会が中心となつて行う「あいさつ運動」の実施 ・クラス単位の「あいさつ運動」の実施 ② 家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・ホームページでの周知	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>90.8% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.4% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>80.0% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0% ↓</td></tr></table> 学校と家庭・地域が連携してあいさつの習慣化に取り組んだが、全体としては十分とはいえない状況である。朝のあいさつを始めとして、様々なあいさつの仕方について、日常生活の場面における使い分けを少しずつ定着させていく必要を感じる。 【次年度の方針】 様々な機会を通して、保護者に協力を呼びかけ、各家庭におけるあいさつの習慣化を推進する。教職員は、日々の生活場面での指導に根気強く取り組む。	児童	90.8% ↓	保護者	73.4% ↓	地域住民	80.0% ↑	教職員	81.0% ↓
	児童	90.8% ↓										
	保護者	73.4% ↓										
地域住民	80.0% ↑											
教職員	81.0% ↓											
生活	A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 基本的マナーと状況に応じた言葉づかいの励行に努める。 ・時と場をとらえた指導の継続（訂正・賞賛） ・「職員室の入り方」等掲示物の作成と活用 ・「礼儀」についての道德の授業の展開	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>82.4% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>70.7% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>86.7% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0% ↓</td></tr></table> 言葉づかいもあいさつ同様、日々の指導に依るところが大きく、全体的に見ると定着には課題が残った。地域住民の肯定的回答は、目標を下回ったものの、昨年度よりも7ポイント近く上昇しており、一定の成果は見られた。 【次年度の方針】 教職員自身の言葉づかいについて常に振り返る場面を取り入れ、時と場に相応しい言葉づかいで接することを意識させる。 具体的な生活場面において、日々繰り返し指導していく。（言い直しや繰り返し等）	児童	82.4% ↓	保護者	70.7% ↑	地域住民	86.7% ↑	教職員	81.0% ↓	
児童	82.4% ↓											
保護者	70.7% ↑											
地域住民	86.7% ↑											
教職員	81.0% ↓											
生活	B2 児童は、思いやりの気持ちを持って生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は友達にやさしく、思いやりがある。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 一人一人を大切にすると人権教育を推進する。 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ② まごころカードを継続的に実施する。 ・居がいのある学級づくり ・保護者への啓発活動の実施	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>89.9% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.2% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2% ↓</td></tr></table> 全体的には、肯定的回答の割合が高かったが、地域住民以外は、昨年度よりも低下してしまった。学級経営においては、児童一人一人に目を配り、個に応じた指導に取り組むことで居がいのある学級づくりを推進した。 【次年度の方針】 児童に接する教職員の言動が大きく影響することから、教職員の人権感覚・人権意識を高いレベルで維持できるよう、研修等の機会を設ける。 問題が生じた場合は、学校全体で問題を共有し、組織的に対応していく。	児童	89.9% ↓	保護者	94.2% ↓	地域住民	100% ↑	教職員	95.2% ↓	
児童	89.9% ↓											
保護者	94.2% ↓											
地域住民	100% ↑											
教職員	95.2% ↓											

健康・体力	A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童が進んで運動に取り組むことのできる <u>体育的環境の整備</u> と体を動かす遊びの日常化を図る。 ・竹馬や一輪車などの遊具の整備 ・まごころ広場の活用 ・「みんなで遊ぶ日」の工夫と外遊びの奨励	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.6% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>69.4% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2% ↓</td></tr></table> 業間休みや昼休みには、元気に外遊びをする児童の姿が見られた。また、まごころ広場も有効に活用された。 【次年度の方針】 体育の授業でのがんばりカードの有効活用により、児童に各自の運動目標を明確に持たせ、目標に向けて運動を奨励する。 なかよし班やクラス等で、「みんなで遊ぶ日」を有効に活用し、進んで運動する機会を設ける。	児 童	91.6% ↓	保護者	69.4% ↓	地域住民	93.3% ↑	教職員	95.2% ↓
	児 童	91.6% ↓									
	保護者	69.4% ↓									
地域住民	93.3% ↑										
教職員	95.2% ↓										
A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、好き嫌いなく食べている」⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 食の指導や給食指導の充実 ・朝食をとっていない児童への指導 ・養護教諭、学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施 ・家庭と連携した食の指導 ②「すこやか教室」の実施 ・町の先生と連携した食育の指導	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>80.8% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>76.4% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% ↑</td></tr></table> 食育だより等の活用により、食に対する保護者の関心が高まった。また、食育コーナーの充実により、児童の食への興味関心が高まった。 【次年度の方針】 食育だより等の有効活用を継続して行う。 各教科、学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した食育の授業を実施する。	児 童	80.8% ↓	保護者	76.4% ↑	地域住民		教職員	100% ↑	
児 童	80.8% ↓										
保護者	76.4% ↑										
地域住民											
教職員	100% ↑										
B3 児童は、自分の健康や体力に関心を持って生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康に気を付け、めあてをもって生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 家庭と連携して、健康の保持・増進に努める。 ・健康診断結果の適切な処置 ・手洗い・うがいなどの <u>衛生的な生活習慣の確立</u> ② 体力向上のための工夫・改善に努める。 ・各種検定や全校生で取り組む強化月間の実施 ・体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践 ・元気っ子体力テストの活用	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>87.0% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.3% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>71.4% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 元気っ子体力テストの結果を保護者に知らせることにより、体力向上のための保護者の意識が少し高まった。 【次年度の方針】 体育の授業等でのがんばりカード等の活用により、体力向上のための具体的な目標を明確化させ、自分の健康や体力に関心をもたせる。 宮っ子チャレンジ、ミニマム等の目標を児童に意識させ、継続的に体力向上に取り組めるよう、支援する。	児 童	87.0% ↓	保護者	68.3% ↑	地域住民	71.4% ↓	教職員	100% →	
児 童	87.0% ↓										
保護者	68.3% ↑										
地域住民	71.4% ↓										
教職員	100% →										

学 習	A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 基礎・基本の確実な定着を図る。 ・少人数指導，習熟度別学習等の工夫 ・話の聞き方や発表の仕方など徹底 ・「城央小の学習の仕方」に基づいた<u>基本的な学習態度の徹底</u> ② 児童の学習意欲を高め，共に学び合う授業の展開を図る。 ・学習意欲を喚起する工夫 ・共に学び合う学習展開の工夫	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>92.4% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.6% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>85.7% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 本時の学習活動のめあてを明確に示すことを日々の授業の中で実践してきた。今日の授業では，何を理解させるのか，どのような力を身に付けさせたいのかを教師自身が意識して児童に向き合うことができた。習熟度別学習の効果がより一層上がるような見通しを持った計画が立てられず，一時間一時間の実践にも課題が残った。 【次年度の方針】 学び合いの場や学習形態が形骸化しないよう，また，ICTの効果的な活用方法等について，日々の指導場面で検証しながら，学習活動の充実に努め，基礎的基本的な力を向上させる。	児 童	92.4% ↓	保護者	89.6% ↑	地域住民	85.7% ↓	教職員	100% →
	児 童	92.4% ↓									
	保護者	89.6% ↑									
地域住民	85.7% ↓										
教職員	100% →										
A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど，落ち着いて学習している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学び合いを重視し，「学ぶ楽しさ」と「考えるおもしろさ」を味わわせながら，思考力の育成を図る。 ・話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりの掲示物の作成と活用 ・話す力・聞く力・学び合う力の向上を目指す授業の工夫 ・共に学び合う学習活動の工夫 ② 「わかる授業」の推進 ・明確な課題の提示と板書等の工夫 ・個に応じた指導 ・教師の自主的，自発的研修の推進	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>86.1% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.8% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>85.7% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 昨年度よりも児童と教職員の意識の差が大きくなり，今年度は14ポイントの開きが見られた。これは，教えたことが必ずしも理解されているわけではなく，身に付いてはいないことを意味していると読み取ることができる。今まで一定の効果を上げてきた「分かる授業」の実践について，問い直す必要がある。 【次年度の方針】 学び合う教師集団として，日々の授業に丁寧に向き合い，適切な指導や支援ができるよう，校内研修を充実させる。	児 童	86.1% ↓	保護者	85.8% ↓	地域住民	85.7% ↓	教職員	100% →	
児 童	86.1% ↓										
保護者	85.8% ↓										
地域住民	85.7% ↓										
教職員	100% →										
B4 児童は、進んで読書に取り組む，読書を楽しんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は進んで読書に取り組む，読書を楽しんでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 読書活動の充実を図る。 ・全校一斉，教師と児童の朝の読書の徹底 ・必読書感想カードの実施 ・ボランティアによる読み聞かせの実施 ・多読者賞の表彰 ・家庭と連携した家読の推進 ・読書リレー ・地区市民センターの利用方法の周知や朝読書の様子の紹介 ・絵本の国の整備	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>77.3% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>64.0% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2% ↓</td></tr></table> 読書リレーや家読の実施によって，保護者の肯定的回答の割合は，3ポイント程度上昇した。但し，全体的にはまだ厳しい状況である。 【次年度の方針】 学校での児童の読書活動の様子や市民センターの利用方法等を図書館だよりで周知する。また，読み聞かせやブックトークを意図的に取り入れ，本に親しむ楽しさを伝えていく。	児 童	77.3% ↓	保護者	64.0% ↑	地域住民		教職員	95.2% ↓	
児 童	77.3% ↓										
保護者	64.0% ↑										
地域住民											
教職員	95.2% ↓										

本校の特色・課題等	B 5	学校は、保護者や地域住民と連携を図りながら、安全で安心な学校づくりに努めている。	① 危機管理意識の高揚を図る。 ・定期的な登校・下校指導の実施 ・避難訓練、防犯教室の実施 ・AED研修 ・アレルギー対応（エピペン研修） ・スクールサポーターやまごころサポーター等との連携 ・子ども110番の家の確認及び更新	B	【達成状況】								
					<table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.3% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table>	児 童		保護者	94.3% ↑	地域住民	100% ↑	教職員	100% →
	児 童												
	保護者	94.3% ↑											
	地域住民	100% ↑											
教職員	100% →												
			安全で安心な学校づくりの取り組みは、一定の評価を得ることができた。保護者や地域と連携を図りながら取り組んだ成果といえる。										
			【次年度の方針】										
			学校・保護者・地域住民・関係機関が相互に連携し、安全で安心な学校づくりを推進する。また、多方面から情報を収集したり、迅速に対応したりすることによって、保護者や地域住民からの信頼を得ようとする。										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校運営の状況に関するA1「学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である」の肯定的回答の割合が、児童・保護者・地域住民・教職員とも90%を上回り、学校経営の理念である「みんなが楽しく」の実現が図られているといえる。来年度も本校の歴史と伝統を踏まえ、「学ぶ楽しさ」「協力する楽しさ」「教える楽しさ」を理念とし、機能的な組織を編成して全校体制で指導・支援に取り組んでいく。
- 教育活動の状況のうち、学習に関するA15・A16の肯定的回答の割合が伸び悩んでいる状況にある。明確な課題の提示や学んだことが分かる板書の工夫、個に応じた指導や支援等を通して「分かる授業」の具現化を推進することによって、学習意欲を向上させ、基礎基本が確実に身に付いた児童の育成に努める。
- 教育活動の状況のうち、児童指導に関するB2「児童は、思いやりの気持ちをもって生活している」は、数値指標に概ね達成しているが、全体的には下降の傾向が見られた。また、A3「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」では、児童の肯定的回答の割合が昨年度を下回ってしまった。学級経営を基盤にした児童と児童、児童と教師の関係性をより高めることによって、相互理解を深め、他者を思いやる気持ちを育てていく。また、教育活動全体を通して、人権教育を推進させる。
- ・教育活動の状況のうち、健康体力に関する項目では、肯定的回答の割合が児童・教職員とも90%を上回り、運動の日常化を推進することができたといえる。運動する児童と運動しない児童の二極化が進む傾向にある中で、運動の楽しさに気付かせるとともに、生涯にわたって運動に親しむ習慣の基盤づくりに継続して取り組んでいく。
- ・保護者や地域と連携を図った安全で安心な学校づくりに関しては、全体的に肯定的回答の割合が高く、保護者や地域との連携が十分図られているといえる。丁寧な対応と適切な情報の発信、保護者や地域住民からの情報収集と分析を推進することによって、地域に開かれた学校づくりをさらに進めていく。
- ・小中一貫教育の取り組みでは、小中間の相互乗り入れ授業や小中合同の行事（冒険活動教室・あいさつ運動）が円滑に進められた。来年度もこれらの活動を継続しながら、地域学校園の活動を充実させていく。

6 学校関係者評価

- ・A1における児童の肯定的回答の割合を見ると、学校が好きではないと思っている児童が8%弱いるので、そう感じている児童を特定して個別に支援していくことが大切ではないかと考える。学習中におとなしくしている児童は、もしかすると理解できないことが原因で静かにしているのかもしれない。児童一人一人に目を向け、その児童のよさが生かされるような支援や助言をすることで、自己肯定感を高めていけるように取り組んでほしい。
- ・A3における児童の肯定的回答の割合が下がっているが、この結果は、児童が真面目に向き合っている結果ではないか。他の小学校と比較しても、本校児童はきちんとしていと感じる。
- ・A5における児童と保護者の肯定的回答の割合に大きな開きがある。学校で指導している内容をより具体的に保護者に発信していくとよい。
- ・道徳の授業が難しいという児童の声を耳にした。「正しい答えを言わなければならないから」という理由らしい。多様な価値観をお互いが認め合える学習環境や生活環境づくりが求められるのではないかと。また、教師の目ではなく、児童同士がお互いによいところを発見できるような環境づくり・授業づくりが大切である。
- ・マネジメントシステムのアンケートの取り方では、地域住民は、児童と接する機会が限られているため、アンケートの内

容によっては、無責任な回答になっているかもしれない。もう少し評価しやすい項目があるとよい。

・朝の挨拶に元気がなく、こちらから声をかけても返事が返ってこないこともある。特に、上級生が挨拶できない登校班は、全体的に挨拶が低調である。挨拶が身に付くよう、手立てを講じてほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進するために、学校を取り巻く、児童・保護者・地域・教職員の思いを吸い上げ、それらを検討し、次年度も下記のような4つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させる。

